



キーワードで考える戦後大学史

入試の多様化

梅田 守彦

うめだ・もりひこ

岐阜経済大学

入試の多様化と聞いて、「ああ、あのケン玉入学などのことか」と真つ先に思い浮かべる人は決して少なくはないだろう。偏差値ではなく個性値を重視するとのキャッチフレーズのもとで、亜細亜大学が導入した一芸一能入試が与えたインパクトは、それぐらい大きなものであったということができるように思われる。これをはじめとする、いわゆるユニーク入試と総称されるもののなかで最も早く世間の注目を集めたものは、一九八三年に信州大学経済学部が導入した方式だろう。それは、数学・英語・小論文の三科目のうち一科目でも上位一〇%の成績をとれば、あとの科目がたとえ零点であっても合格できるというものだった。

当時の信州大学経済学部は、設立されて数年を経たばかりの新しい学部だった。設立の翌年の一九七九年には、偏

差値による輪切りに伴なう大学序列化をすすめるのか、受験生の負担を増加させるとかといった否定的な予想が見事な中した共通一次試験が導入されたため、新設・地方国立大学・文科系、の同学部は受験生確保に頭を悩ませたようである。しかしこの入試制度の改革の結果、競争率は前年の一・六倍から一・四倍に跳ね上がった。なおその後、信州大学は、社会人入学や多様な経歴の講師の招聘などでもその名を馳せることになるわけだが、新設学部であったからこそ「私立は得意科目型、国立はオールラウンド型」というそれまでの常識を、想像をはるかに越える形で打ち壊すことができたのかもしれない。

これらの大学の成功に刺激されて、その後多くの大学でも入試改革が相次いでおこなわれた。その内容は ①入試科目数を減少させる、②受験生の得意科目の比重を高める、③スポーツ・文化などといった学力以外の能力を重視する、④面接・小論文などによって受験生を評価する、⑤何れも入試をおこなって受験のチャンスを増やす、などに大別されるだろう。そのような入試改革を実施した趣旨として、教育上の効果に関する説明がなにかとなされることが多いわけだが、特に私立大学にとっては志願者を増やすことによって、優秀な学生を確保すると同時に経営の安定を

図るとというのが第一義であるように思われる。

私立大学との競合関係にある国公立大学でも、信州大学に続いて次々と入試改革がなされた。共通一次試験の時には五教科ワンセットでの受験が義務づけられていたわけだが、センター試験では、どの科目を課すかは各大学の選択に任されることになったため、受験生は各大学が指定した科目だけを受ければよいという、いわゆるアラカルト入試などはすでに定着している。さらには、受験機会の複数化を図る目的と、優秀な受験生を確保しようとする大学側のエゴとが合わさって現在のようになつた「前期日程・後期日程」「分離・分割方式」などといった試験日程なども、国公立大学の入試を多様なというか複雑なものとして

いる。

ところで大学教育は高校教育の延長上にあるはずだが、このような入試改革において、大学教育と高校教育との関係づけについてはどのように配慮されているのだろうか。また多元的な評価基準を用いて幅広い人材を確保したいという意図はよく理解できるのだが、多様な入試を経て入学してきた学生をどのようにフォローしていくかについては十分に検討されているのだろうか。もともと、人と出会って何かを感じるからこそが大学教育の主眼であるから入学

後の学習上の配慮をさほどしなくても、問題はないといつてしまえばそれまでだが。

興味深い記事が目に入った。一九九七年度にある県の県立高校に新設されることになったある学科では、推薦入学枠に限ってはこれまでのような受け身の面接ではなく、歌っても踊っても何でもかまわないという自己表現の時間を設けたというのである。それに関して、その県の教育委員会の高校教育課は「大学とは違うので一芸だけで合格というわけにはいかないが……幅広い評価をしたい」（朝日新聞一九九六年五月二十一日西部版）との見解を示したそうである。細かく詮索するわけではないが、この担当者のかには、大学と違って高校は勉強の場である、という矜持が感じられるように思うのはうがった見方だろうか。

いわゆる十八歳人口の減少に伴なって、将来はほとんど無試験で入ることのできる大学が数多く出現するとみられているようだ。その時機が到来したときに、従来の三教科三科目入試を続けていたのがいきなり無試験というのではシヨックが大きすぎるので、三科目から二科目、一科目そして無試験へとソフト・ランディングするほうが、教職員にとつても徐々に覚悟ができるので好都合ではないか、という皮肉な意見を耳にしたことがある。一芸入試などの現

在の入試改革で採られた方式のいくつかが、無定見に導入された無試験時代までの徒花であったと総括されるときが来ることになるだろうか。